

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム 愛心 (北棟・南棟)		
所在地	〒812-0858 福岡県福岡市博多区月隈6丁目16番11号 電話:092-503-9008		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果確定日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JijyosyoCd=4070900875-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成27年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」をスタッフが理解し実践している。施設は純和風な作りをしており、居室は畳部屋で高齢者の方が心地よく生活できるような環境を整えている。スタッフは、ご利用者様本位のサービスを提供することを目標としており、日常生活においてはご利用者様の個々のペースを把握し、起床、食事、入浴時間においては固定せず、可能な限り希望通りのサービスが提供できるように配慮している。また、入居者様が退屈しないようレクリエーション、行事、外出支援に力を入れており、ご家族様をお招きして母の日会、敬老会などを実施し、ホームでの生活が楽しいものとなるよう取り組んでいる。その他、地域交流にも力を入れており、近隣の保育園、小中学校との交流会や毎年開催している夏祭りでは、地域の方にお越しいただいて、地域に貢献できる施設を目指してい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所のフロアでは2ユニットの入居者が一緒に過ごしており、入居者とスタッフが手作りゲームをして共に楽しんだり、綺麗に化粧し身支度した入居者がいて、事業所の理念の中の、「楽しく・美しく」が実践されていることがわかった。うまく言葉に出来ない入居者の様子を知るために、入居前には、以前利用していた介護サービス事業所に出かけたり、ケアマネージャに連絡をとり詳しく情報収集をして、グループホームでの本人本位のサービスの質の確保ができるよう充分なアセスメントをしている。入居者は「食べる事が楽しみ」と話していて、三度の食事作りは全て、職員が献立作りから調理まで係わり美味しい食事を提供している。入居者はそれぞれに本人のやれることをやり、昼食準備では、柿の皮をむいたり、茄子の煮浸しを盛り付けをしていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の介護理念を掲げている。スタッフは毎日申し送りの時に確認すると共にスタッフ同士、介護理念を共有し日常業務にあたっている。	開設当初スタッフ全員で作った理念を、毎朝の申し送り時に、無作為に選んだスタッフに暗唱してもらい、日々の業務で実践できるように意識づけをしている。スタッフは理念を元に入居者に接している。	理念が具体的に実施できたかを確認するために、朝の申し送り時に、スタッフが昨日実施した理念を話してもらい、更に理念を意識して入居者に関わる取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、近隣の小学校と交流会を催したり、敬老会等の地域行事に積極的に参加している。また、法人で開催する夏祭りには、沢山の地域の方にお越しいただき楽しんでいただいている。	交流行事の一環として近隣の小学校からの訪問を受けている。子供達と一緒に花の種を蒔くときの表情は笑顔が絶えない。花が咲いたら見せに来てくれるのも楽しみの一つである。夏祭りは盛大に催され、今年は入居者も舞台に立ち、手話で”ふるさと”の歌を披露した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談できる場を設けている。また、地域にどう貢献していくのかを区のグループホームの交流会に参加し検討を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の活動や取組、利用者様の状況について報告している。その中で、委員の方から意見やアドバイスをいただき、そこからグループホームのサービスの向上へ繋げている。	会議に参加している方には、事業所の状況を包み隠さず話して、率直な意見を得ている。以前フロアには、パーテーションを使いユニットごとに区切っていたが、家族からの意見を元に、パーテーションを取り除き一緒に過ごすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。事業所の状況を報告したり、施設の夏祭りや敬老会等にも出席いただき日頃から交流を図っている。	運営推進会議に出席した行政の方から、地区の状況を報告してもらい、身近におきた高齢者の詐欺被害を聞いている。介護保険制度の変わった点などの説明も同時に受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針として身体拘束は行っていない。また、身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフが閲覧できるようにしている。施設内にて定期的に職員研修も行われており身体拘束について学ぶ場を設けている。日中、玄関の施錠は行っていない。	身体拘束をしない介護について、必ず年1回は研修項目に上げ、スタッフの参加があることが記録で確認できた。外に出たがる入居者がいる時は、一緒に出かけて入居者の自由を妨げないようなケアをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフは施設内の職員研修にて高齢者虐待防止について学ぶことができる。万が一、スタッフが虐待へと繋がるような対応を発見した場合は迅速に対応している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフは施設内研修において成年後見制度・日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けている。また、家族からの希望があれば、申請手続きに関して支援、協力をしている。	きちんとまとめられた研修資料を確認した。研修にシフトの関係から出席できなかったスタッフにも、研修の資料を配り自主学習してもらっている。現在は2人の成年後見制度の利用者がいて支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間をとって説明を行っており、説明不足がないように配慮している。また、不安や疑問点などはないか確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な担当者会議・運営推進会議などにて、御本人様やご家族様から意見を聞く機会を設けている。また、面会時等においてもコミュニケーションをとりながら要望などがないかお聞きしている。	言葉に表しにくい入居者の気持ちを汲み取る姿勢で関わり、家族は字の練習を希望したが、本人の困難そうな様子を見て塗り絵に変更し現在も継続している。双方の意向に沿う様子がわかった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで職員が意見を述べる場を設けている。その他、希望に応じ意見を聞く機会を設け日頃から業務の改善を図っている。また、年に一度職員へ対し、アンケートを実施し意見や提案を聞く場を設けている。	スタッフからの業務改善案として、入居者の受診や買い物に対応するため、優先的に公用車を使えるようにして欲しいと要望を出し実現できた。スタッフの勤務内容に関して、皆で協力していく姿勢で改善している。意見を言いやすい体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と代表者が個別に面接する機会を設けている。日頃から、職員がやりがいをもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、個別面談にて決定しており年齢、性別などの制限は設けていない。また、スタッフの一人一人の能力、経験に合わせ積極的に外部研修に参加する機会を設けている。	22歳から60歳の年齢の幅が広いスタッフが働いている。ピアノ・三味線を弾くスタッフや調理師の資格を持つスタッフがいて、その特性をサービスに生かしている。資格試験を受けたスタッフがおり、スキルアップに繋げている。ポスターや資料で情報を伝え、外部研修に行けるように促している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	職場内研修にて、人権・接遇等の関する勉強会を定期的開催している。また、日頃より入居者様に対する言葉遣い等について気を配るよう促している。	入居者が女性ばかりなので、スタッフは「自分たちのお母さん」との想いを持って接している。自身の身だしなみ、言葉使いは基本的に気を付け、お互いに注意しあえる関係でいる。法人で、町内の小学校に出向き、認知症の話をしており、啓発活動を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員勉強会を開催している。また、職員の能力や経験に合わせて外部研修に参加し、スキルアップの機会を提供している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修やグループホームの交流会などへ積極的に参加させ同業者と交流する機会を設けている。また、要望があれば他施設からの実習など受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、御本人様より希望や不安についてお聞きしている。また、不安については特に注意し声かけ方法など配慮している。サービスを安心して開始していただけるよう信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず御家族様と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。御家族様とよく話し合いを行い、信頼関係の構築に努めるとともに、当施設がどのような施設であるかを理解していただくよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の御本人様やご家族様との面談の中でどのような生活を望んでいるかを把握するよう努めている。その中で、当施設で提供可能なサービスについて説明し、納得されたうえで入居いただいている。御本人様やご家族様の希望するサービスが提供できない場合は、他の事業所を紹介する場合がある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、ご入居者様の力を借りながら、食器拭きや野菜切り・盛り付けをお願いしたりと共に生活をしている。スタッフは、一人一人に合った個々の力を大切に支援するよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日会や敬老会等の行事の際に、ご家族様をお呼びしたり、可能な場合は御家族の方に外出支援への参加をお願いしたりしている。また、面会時や毎月担当職員からご家族様へ御入居者様の近況報告や写真を送り、ご家族様との情報共有に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や行きつけのスーパー等について、御本人様やご家族様の希望を優先している。また、馴染みの場所への外出希望等があれば実現できるように対応している。	入居者の中には数名の方がかかりつけ医を持ち、家族の協力もあり受診している。受診先で知り合いと会ったりして、懐かしい時を過ごしている。入居者それぞれの、想い想いの場所を事業所は把握し、個別対応をして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、日頃からご入居者様間の人間関係を把握し、入居者様間のトラブルを未然に防ぐように努めている。また、レクリエーションや工作などを通して入居者様同士で連携し協力していけるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為に退所された方についても、スタッフがお見舞いに行ったりして交流を続けている。また、退所された方から併設の特養への希望があればご案内している。特養へ入所された方については、仲の良かったご入居者様とスタッフが特養を尋ねたりして交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、日頃より御本人様やご家族様と会話の中で希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。また、外出の希望がある場合は、ご家族様と相談し、個別支援にて対応している。	以前の生活や習慣などの情報をなるべく丁寧に聞き、必要時は入居前のサービス事業所からも情報を得ている。入居後は日常の会話や表情、また、家族からの情報も日々の記録に記入し、それらの情報を元に、外出支援や日々の生活の仕方を工夫している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフは、ご家族様からの情報を参考にすると共に、日頃よりご入居者様1人1人の生活歴や趣味・好み等の情報収集に努めサービスの向上に努めている。また、スタッフ同士、情報の共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、日頃より一人一人の生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細かな表情を気にかけて様子観察を行い、体調悪化を未然に防ぐよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、ケアマネージャーや担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに、担当者会議にて御本人様やご家族様の意見を受け、御本人様が安全にかつ安心して希望する生活が送れるための介護計画の作成に努めている。	担当スタッフとケアマネージャーを中心に、全スタッフから意見を聞いている。家族から「足の上がりが悪くなったので階段の昇降をさせて欲しい」という要望があったため、計画に組み込んで体調を見ながら実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、キーワードを基に、日常の様子など細かい点について記入するよう努めている。また、記録だけでは伝わらない点については、毎日申し送りを行い、口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い、解決するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に面会時間を設けているが、時間外の面会についても柔軟に対応している。買物や外食、芝居見物などの外出支援についても定期的に行っている。また、年二回施設全体の県外へのバスハイクも行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の馴染みの病院や薬局・スーパー等把握し、入居後も引き続き利用できるように支援している。入居したことにより地域との関係が途切れないように配慮している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、御本人様やご家族様に意向を伺い、希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながら御入居者様の健康の維持を図っている。また、訪問歯科回診も行っている。	ほとんどの入居者は、連携医による月2回の訪問診療を受けており、訪問歯科回診も5名が受けている。入居前と同様にかかりつけ医の継続を希望する場合は、家族の受診援助を基本としているが、困難な場合はスタッフが受診援助を行っている。医師の指示及び体調の変化や観察内容は、情報シートを活用し全スタッフが対応できるようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配置されていないが、急変時の対応や感染症の予防など、必要な場合は併設の特養の看護師に相談し助言を受けている。また、スタッフは訪問看護師と連携をとるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、定期的に病院を訪れ看護師やソーシャルワーカーから話を聞き、治療の経過や入居者様の状況などについて情報を得ている。また、スタッフは日頃の受診付添の中から医師や看護師との関係作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学や入居希望の問い合わせ・入居契約時に施設で出来る事と出来ない事について御本人様やご家族様に必ず説明し納得していただいている。重度化した場合は、主治医に相談し、連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。万が一、当施設で生活が続けられなくなった場合、他施設や病院と連携をとり受け入れ先を探している。	重度化や看取りを含めた終末期の対応が難しいことは、入居前や契約時に十分説明し家族に理解してもらっている。スタッフ間の情報共有をしっかりと行い、日頃の観察や主治医との連携で重度化しないように努力している。しかし、ホーム内での生活が難しくなった際は、施設内の特養を含めた他施設や入院を勧めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各項目でマニュアルを作成している。全スタッフは対応について理解している。施設内にて定期的に研修があり学ぶ場を設けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害対策について施設内にて研修があり学ぶ機会を設けている。また、当ホームにて火災訓練を実施している。日頃から地域との交流を図っており、災害発生時は協力し合える関係を築いている。	災害時の対応については、定期的に施設内研修が行われ参加している。最初に避難集合する場所は、素早く安全に出られるベランダと決めており、夜間も想定した訓練も実施した。消防の査察も定期的に行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で声かけなどについて、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。また、個人の資料はカギのかかるロッカーで保管している。	自己決定しやすい言葉かけを心がけており、スタッフ同士や入居者との会話は、明るく穏やかで丁寧であった。個人を尊重する基本的な姿勢が根付いていると感じ取れた。個人の資料は、入居者や部外者が入りにくいコーナーの、鍵の掛かるロッカーで保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御入居者様とのコミュニケーションをとりながら、一人一人の想いを引き出すよう努めている。スタッフは声かけしながら、御本人様が自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に考慮しながら、御本人様の希望に沿えるように心掛けている。また、各場面の担当を決め、コミュニケーションをとりながら、より細やかな支援がおこなえるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や身だしなみなどは、居室や別室をご利用していただいている。購入時は、御本人様の使い慣れた化粧品をご自分で選んでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に野菜を切ったり、盛り付けや片づけ等行っている。また、季節感を感じていただけるようメニューを工夫したり、個々に合わせたメニューを考え、食べやすさに考慮している。スタッフは、御入居者様と同じテーブルと一緒に食事をしている。	『入居における一番の楽しみの食』を大切にしている。食事メニューは担当者が考え管理栄養士に点検してもらっている。食べたいものを尋ねたり、季節の旬の食材を取り入れている。調理・盛りつけや後片付けは、入居者の長年の経験を活かせるように、できる作業を行ってもらっている。訪問時は、皮むきや小鉢の盛りつけを楽しそうに作業されている場面を見ることができた。	“今日の献立”はフロアに掲示されていたが、月ごとの献立表の掲示がなかった。家族が訪問してきた際に、毎日どのような食事をしているのかわかると入居生活がもっと身近に感じられると思われる。『食を楽しむ』事を大切にされているので、工夫が望まれる。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が不足しないように毎食チェックをし把握している。不足している場合などは、補助食品や御本人様の好みに合わせ提供するよう努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・介助を行っている。義歯については就寝前にお預かりし、洗浄を行っている。また、週一回の訪問歯科回診があり、相談しながら口腔内の清潔に努めている。希望時は、定期的に歯のクリーニングを受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄習慣を把握し、ご入居者様がストレスがなく排泄が行えるように声かけ・介助している。介助の際は、出来る限り残存機能を活かし自立に向けた支援を行っている。	常時リハビリパンツを使用している人は2～3名ほどである。夜間頻尿の方もおられるので、転倒せず安全に排泄行動ができるように、羞恥心にも配慮しながら見守りを行っている。転倒の危険性のある入居者のために、目印としてトイレ手すりに赤いテープが巻かれていたり、打撲による創傷予防のために、手洗い場所の壁掛けを外すなどの対応策が実施されていた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用してスタッフ全員で確認をしている。便秘が続かないよう水分(水・牛乳)など多めに摂取していただくよう声かけしている。また、便秘が続いた場合は、主治医に相談するなどして改善に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人様の体調を考慮しながら、希望に合わせて(時間帯など)入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法や時間帯、スタッフの交代など工夫し、入浴していただけるよう努めている。また、ご家族様にもご協力いただいている。	入浴時間は特に決めず、当日の希望を確認して入ってもらっている。羞恥心や不安感に配慮し、必要であればスタッフの交代なども工夫している。かかりつけ医の指示をもらい保湿剤や治療薬塗布なども行っている。入浴拒否の方には、家族の理解や協力も得ながら、清潔が保てるよう努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様の体調に考慮するとともに、希望に沿って休憩していただいている。夜間不眠の訴えがあった場合は、傾聴を行い、温かい飲み物を提供するなどし対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送りを行っている。また、変更の情報も共有するよう努めている。体調の変化には十分注意し、変化がみられた場合は主治医に相談し、薬の調整などを行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理(食材切り・盛り付け・片づけなど)、外食、買物、散歩、歌など毎日の生活が退屈にならないように配慮している。また、体操・生花・陶芸などの教室を催し趣味活動を続けて頂くように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に花見等のバスハイクに外出している。また、買物や散歩、外食などの個別支援を行っている。半年に一度の遠方へのバスハイクなどは家族の協力を得て一緒に外出もしている。	外出強化月間を作り、2~3ヶ月に1回のペースで外出支援を行っている。入居者の希望を聞いて、6月は外食(うどん・寿司・ファミレス)やリフレッシュ農園・珈琲などに全員が外出でき、「また行きたい」の声が多数聞かれた。年2回の施設のメガバスハイクには、ご家族と共に参加してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で預かっているが、御本人様が希望された場合は、お金を所持されている。買物の際などはご自分でお支払いをしていただくよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族様や御友人様に電話をかけていただいている。また、携帯をご使用の方については使用時支援している。年始にはご家族様に年賀状を出していただくよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内のディスプレイに季節感を取り入れて心地よく過ごしていただけるよう配慮している。また、テレビやCDの音楽の音量、室温や光など細やかな部分についてもストレスとならないように気を配っている。	玄関は鈴の音で出入りがわかるように工夫されている。食堂も兼ねているフロアは、入居者の様子が素早く見通せるようになっている。以前あったユニット間の仕切りを取り外したことで奥行きが感じらる。フロアでは小人数でのゲームやパズル・塗り絵が行われていた。食事準備も同時に行われていたが騒々しさは感じられなかった。また、壁の飾り付けは季節感あふれており、CD音楽も活用されているが音量は抑え気味にされていた。浴室は安全を考慮してスタッフ不在時は施錠されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。日向ぼっこや散歩、談話など仲の良いご入居者様同士で過ごしていただけるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具や調度品・仏壇・趣味の物等取り入れ、自由にご自分の部屋を使用していただいている。また、安全面も考慮し安全バーなども設置している。	居室は和の雰囲気が漂い畳敷きになっており、畳だからと入居された方もおられる。馴染みの家具や仏壇、小物も置かれており『自分の部屋』らしく落ち着いた雰囲気がある。転倒の危険性がある入居者には、滑り止めマットや家具の置き場所の工夫、手すりやベストポジションバーの設置で転倒を防止するようにしている。必要であれば転倒予防センサーを使うこともある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御入居者様一人一人の生活スペースを把握し、各々の部屋の表示をしっかり目立つよう表示し、個々の動線上に事故に繋がるものがないように配慮している。また、居室などにおいても事故を未然に防ぐための環境作りに努めている。		